

NEXCO中日本管内EV用QCサービスの現状と課題

2014//03/26

NEXCO中日本

企画本部 経営企画部 経営企画チーム

秋山 彰

NEXCO中日本 ご存知ですか？



**NEXCO中日本は
1都11県の高速道路の建設・管理を担当**



■各社の供用延長(2013.7)
NEXCO東日本: 3,733km
NEXCO中日本: 1,949km
NEXCO西日本: 3,398km
首都高速: **301km**
阪神高速: **259km**
本四高速: **173km**

NEXCO中日本管内EV用QCサービスの現状と課題

- NEXCO中日本では、CO₂の削減目標を着実に達成し、環境・持続可能社会の実現に貢献するため、2010年4月に試行導入として東名高速道路の海老名SA及び上郷SAに、電気自動車用急速充電インフラの整備・運営を開始
- これまでの4年間の運営における現状と課題について、報告するもの



目 次

- **EV用QCサービスの現状 (1)～(4)**
- **EV用QCサービスの課題 (1)～(3)**
- **次世代自動車充電インフラ整備ビジョン (1)～(2)**
- **電気自動車用急速充電インフラの整備計画**

EV用QCサービスの現状（1）

○試行導入

2010年4月 東名 海老名SA・上郷SA

2011年4月 東名 足柄SAほか

2012年4月 新東名 浜松SAほか

2013年4月 中央道 談合坂SAほか

- ・サービス提供範囲を順次拡大
- ・現在、38基のQCを運営

▶ ガソリン車との負担の公平性確保や将来的な課金の仕組みづくりとして100円/回を徴収

ご利用料金

100円/30分

適用期間

2014年度末まで

▼EV用QCの整備状況(社会貢献事業)

	2010年末	2011年末	2012年末	2013年末
急速充電器	4基	15基	21基	38基



NEXCO中日本管内

電気自動車用
急速充電サービス

EV用QCサービスの現状（2）

**NEXCO中日本管内
EV用QCサービス会員
12,000人
(2013.12現在)**

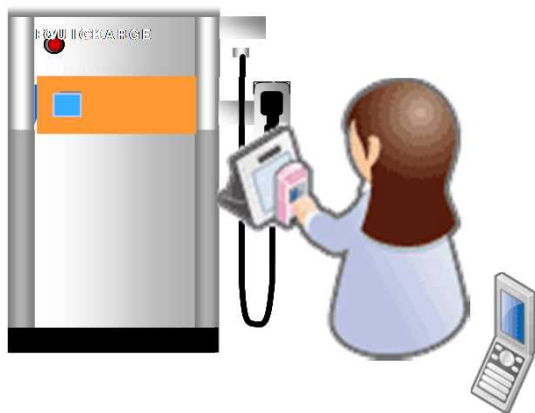
NEXCO中日本管内

電気自動車用
急速充電サービス

12111 0000001

当社の会員制QC会員以外の方であっても
他の会員制充電サービスとの連携により
高速道路のSA・PAにおけるご利用が可能

**NEXCO中日本管内
EV用QCサービス**



充電網整備推進機構



ジャパンチャージネットワーク

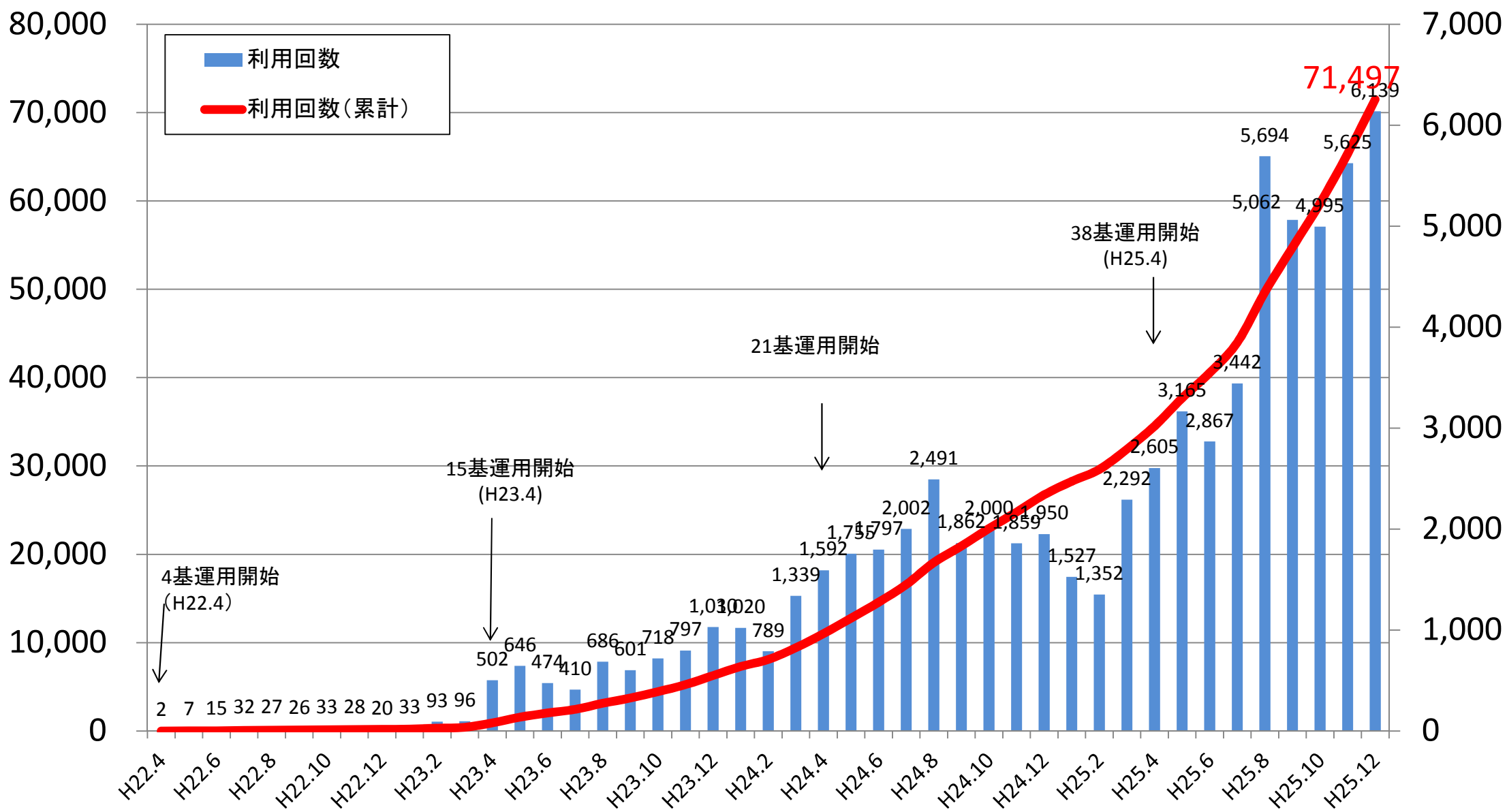


JTBコーポレートセールス

EV用QCサービスの現状（3）

(回) ▼QC利用回数の推移

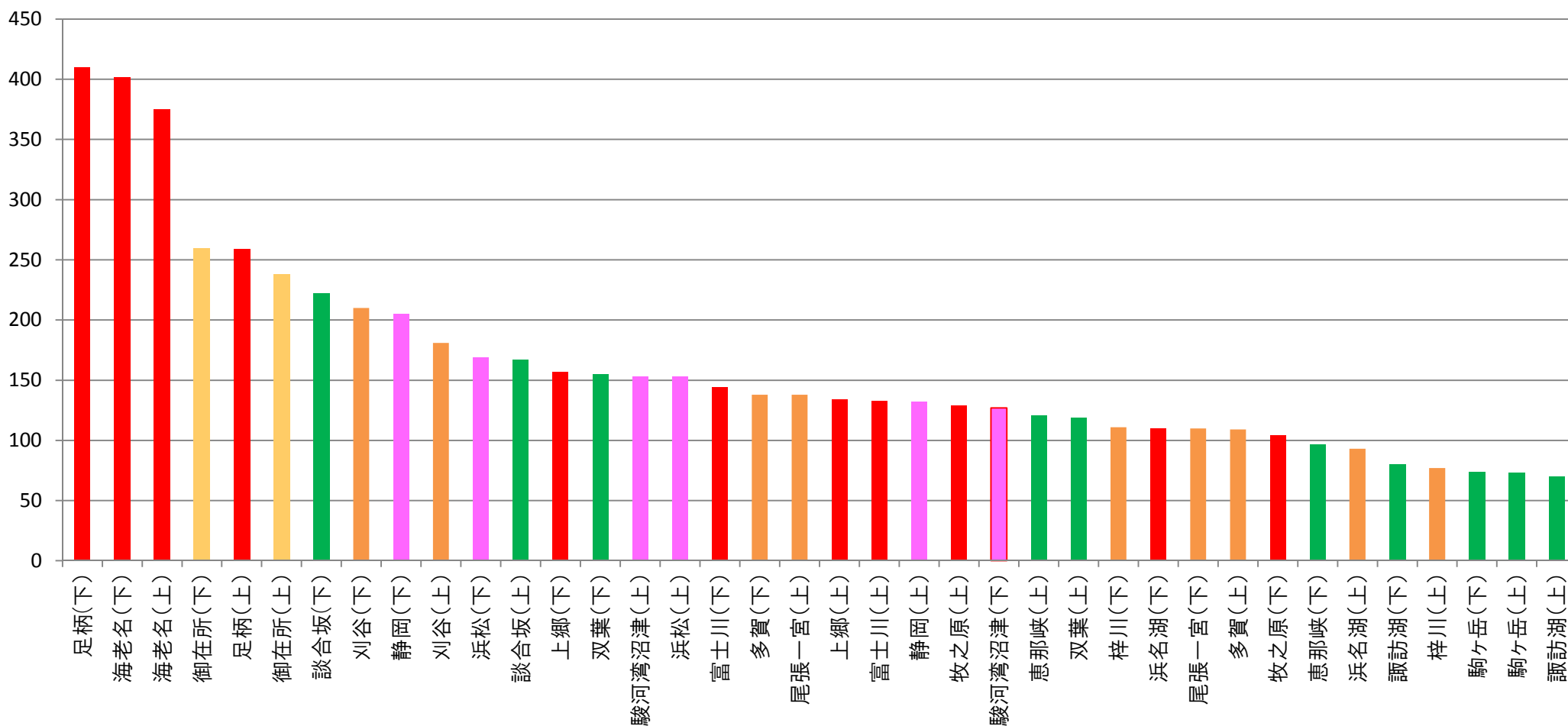
(回/月)



EV用QCサービスの現状（4）

▼2013年12月実績

	月間平均利用回数	月間最大利用回数	日最大利用回数
急速充電器	162回/月・基	410回/月・基	28回/日・基



■現 状■

電気自動車の普及促進に伴い**QC**の利用回数が急増

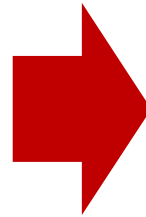


■課 題■

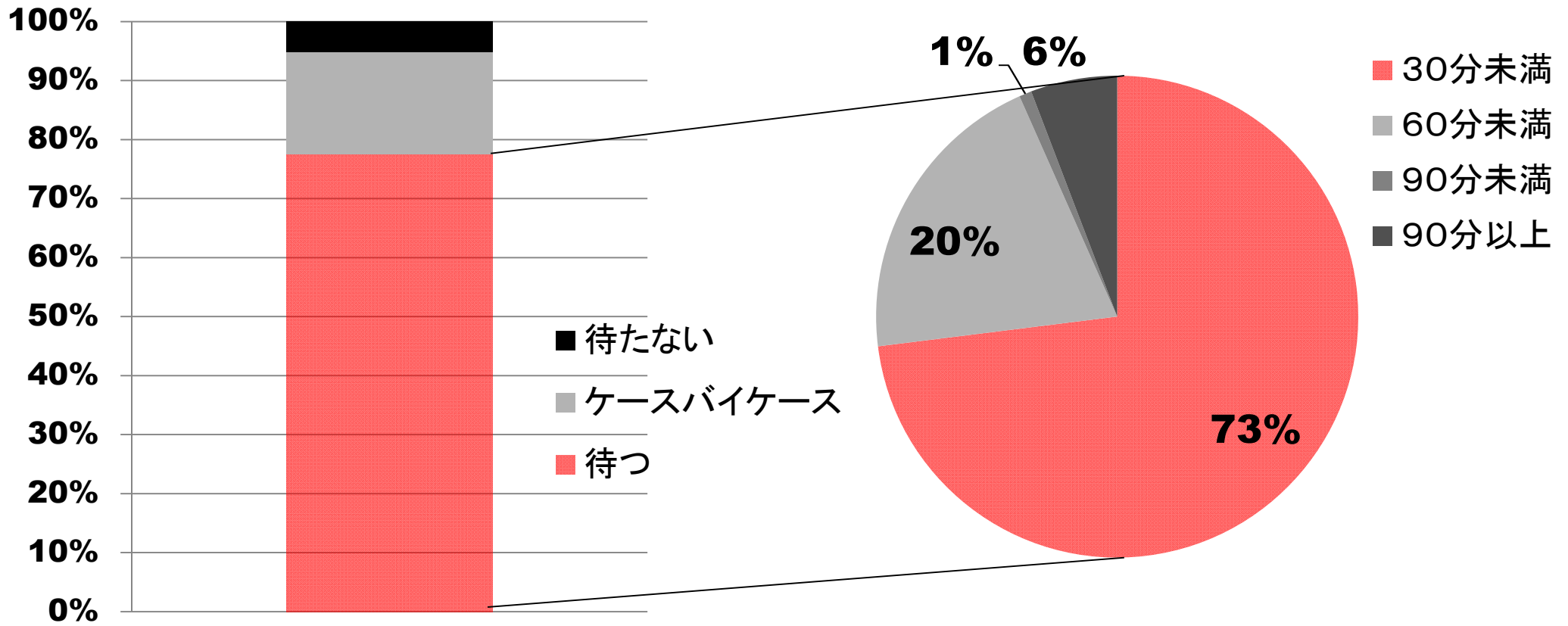
- ①**QC**の整備拡充を求める要望が急増
- ②首都圏の近傍エリアを中心に充電待ちが頻発
 - ✓ 長時間の充電待ちに対する苦情発生（最大**5～6**台）
 - ✓ 充電待ちスペースが整備されていないエリアでの待ちスペース確保要望
 - ✓ **PHV**車の充電に対する**EV**ユーザーからの苦情

EV用QCサービスの課題（2）

高速道路で充電する際、先行車両が充電している場合約8割の方が充電完了を「待つ」と回答



「待つ」を選択された方のうち約7割の方が、「30分未満」の充電待ちを許容



出典：NEXCO中日本管内電気自動車用急速充電サービス会員に対するアンケート結果(2013.9)

■課題解決の方向性■

①QCの整備拡充を求める要望が急増

⇒次世代自動車充電インフラ整備ビジョンの策定を行い
QCサービス提供範囲を拡大

・これまで整備されていなかった北陸自動車など
NEXCO中日本管内全域でのサービス提供

・首都圏域での整備充実
東名 港北PA^①
中央 石川PA ほか

■課題解決の方向性■

②首都圏の近傍エリアを中心に充電待ちが頻発

⇒充電待ちが特に頻発しているエリア

東名 海老名SA / 足柄SA

中央 談合坂SA … 2基整備

⇒**QC1**基あたり、駐車スペースを**2**台確保を標準化

（2012年以前に整備した既存エリアは別途対応）

次世代自動車充電インフラ整備ビジョン（1）

➤ビジョンの策定

当社に寄せられたお客さまやEVユーザーの声などを踏まえ、QCサービスの課題の解決を図るべく、次世代自動車充電インフラ整備ビジョンを策定

➤QC整備の目的

【試行導入段階】

当社では、CO2の削減目標を着実に達成し、環境・持続可能社会の実現に貢献するため、2010年4月に試行導入として東名高速道路の海老名SA及び上郷SAに、電気自動車用急速充電インフラの整備・運営を開始

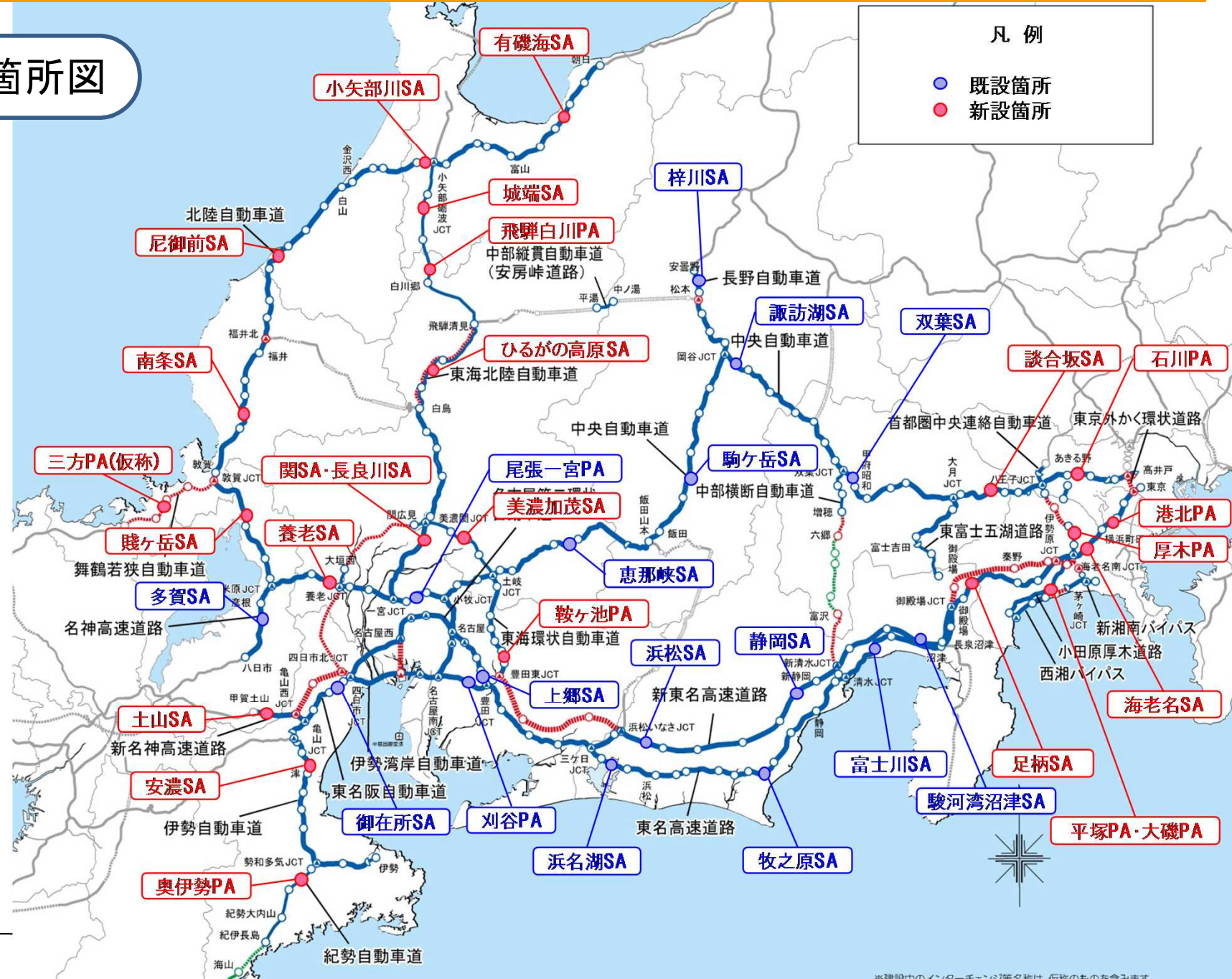
【本格導入段階】

「EVの本線上における「電欠」を回避し、本線上での停止に伴う追突などの交通事故等を防止し、高速交通に及ぼす影響を極力排除するためのもの」

⇒本線路肩での死傷事故が頻発しており、「電欠防止」は、道路管理上及び交通安全上極めて有用性が高いものと認識

次世代自動車充電インフラ整備ビジョン (2)

充電インフラ整備箇所図



※建設中のインターチェンジ等名称は、仮称のものを含みます。

電気自動車用急速充電インフラの整備計画

- **NEXCO**中日本は、2013年12月20日に公表した次世代自動車充電インフラ整備ビジョンに基づき、ジャパンチャージネットワーク株式会社と、充電インフラの整備、維持管理及び運営を共同で実施していくことを公表
- 共同事業によって当社管内の全域で充電サービスの提供が可能となり、「電欠」による高速道路上での停止に伴う追突事故を防ぐとともに、安全性の向上が図ることができ、次世代自動車の普及促進や、電気自動車のユーザーの利便性向上などに貢献

■共同事業の主な内容■

1. 経済産業省「次世代自動車充電インフラ整備促進事業」の補助金を活用した管内の45箇所の休憩施設(SA・PAの上下線別)に51基の充電インフラを新規整備
2. 新規に整備する51基の充電インフラと、既存の充電インフラを含めた中日本高速道路管内全83基の充電サービスの提供

『道を通じて感動を 人へ、世界へ』



ご清聴ありがとうございました